

お口の健康情報室

虫歯じゃないのに、冷たい水で歯がしみたり、歯ブラシを当てた時にチクツとした痛みが起ることがあります。知覚過敏という症状です。

歯周病で歯ぐき下がったり、強いブラッシングで歯のエナメル質が摩耗したりして、象牙質が露出してしまふことで起ります。患者さんは20〜50歳代の方が多いです

知覚過敏 歯肉ケアを

が、誰にでも起りうる歯のトラブルです。

象牙質がむき出しになると、冷たい飲食物の刺激が歯の内部の神経に伝わり、鋭い痛みを感じるようになります。痛みは一過性で、刺激がなくなると痛みもなくなるのが知覚過敏の特徴です。

もし発症しても、お口のケアと食生活を少し変えるだけで、象牙質の露出や痛みを最小限に抑えることができます。確実な予防法はありませんが、歯肉が縮んでしまわないように歯周病を予防するこ

とが、知覚過敏の予防にもつながります。

症状が続くようであれば、早めに歯科医院に相談し、適切な処置と指導を受けましょう。

(千葉県歯科医師会)



日本歯科医師会PRキャラクター
よ坊さん(千葉県当地版)